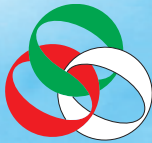


とあみつく

61



令和元年9月◆日(◆)発行 第61号

労働者健康安全機構

大阪労災病院

新たな“がんセンター”が誕生しました！

大阪労災病院は、2002年に国指定の“地域がん診療拠点病院”に認定されました。以来十数年にわたり、堺市2次医療圏の中核として最先端のがん診療を行えるよう努めてまいりましたが、この度、より質の高いがん診療を目指して、新たな“がんセンター”が誕生しました(図1)。より高度な“化学療法センター”ならびに“放射線医療センター”を設置し、さらに、がん患者さんご家族の心と身体のケアを行う“がん相談支援センター”ならびに“緩和ケアセンター”の体制が整備されました。また、2018年に厚生労働省は全国11カ所のがんゲノム医療中核拠点病院を設け、現在、大阪府に13のがんゲノム医療連携病院を指定していますが、今春より当院も大阪大学のがんゲノム医療連携病院に認定されました。これを受けて、院内に“がんゲノム医療センター”を新設し、遺伝子パネル検査による遺伝子診断ならびに遺伝子治療に取り組んでおります。

近年、がん化学療法が画期的な進歩を遂げています。本庶佑教授が2018年にノーベル医学生理学賞を受賞されたことで有名になったオプジーボ(抗PD-1抗体)に代表される免疫チェックポイント



がんセンター長
平松 直樹

阻害薬、そして遺伝子異常によってがん細胞に作られた分子に結合してがん細胞を死滅させる分子標的治療薬の開発が日進月歩で進んでいます。当院では、今春より近畿大学腫瘍内科から奥野達哉先生に赴任いただき、本年4月より腫瘍内科が発足して、より充実した横断的ながん診療ができる化学療法センターとなりました。

最先端のがん治療を提供させていただく一方で、チーム医療による“がんと診断されたときからはじまる緩和ケア”を行っています。今春より京都医療センターから河緒憲幸先生に赴任いただき、本年4月より専従医2名/専任医1名を中心とした緩和ケア科が発足しました。毎日の緩和ケア外来そして入院患者さんを対象とした緩和ケアチームによる毎日の病棟ラウンドも始まり、がんを患われている患者さんの不安を少しでも軽減できるよう努めています。

また、“がん相談支援センター”では、がん患者さんの就労支援も積極的に行っています。これまで、勤務されている職場の仕事とがん診療を受けていただくことの両立を支援させていただいておりましたが、本年10月より大阪労働局ならびにハローワーク堺と連携し、新たに就職を希望されている方に対しても、病状、治療状況などを考慮して就職活動をサポートさせていただくことになりました。

新たな“がんセンター”において、スタッフ一同、これからも市民の皆さまとともに“がん”に向き合い、そして、“がんとともに生きる”患者さんの診療と心と身体のケアに全力を尽くしていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

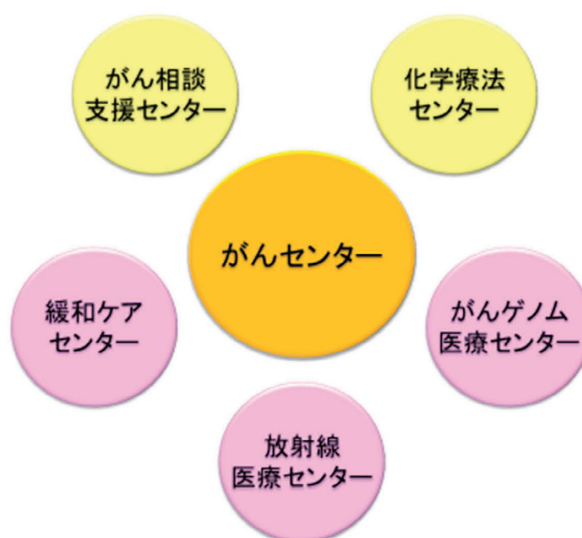


図1. 大労に誕生した新たながんセンター

● : 新設(2019/4)

職場紹介 腫瘍内科

大阪労災病院は、地域がん診療連携拠点病院として、各診療科がレベルの高いがん診療を行ってきましたが、臓器横断的ながん診療を行う科として、2019年4月から腫瘍内科が開設され、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医が常勤する事になりました。当科が指向するがん診療については以下の通りです。

1. 臓器横断的な外来がん化学療法

当科は原発臓器にかかわらず、臓器横断的ながん診療を行います。更に、(これまでは治療法決定が難しかった)同時期に重複してがんを発症し、かつ、原発巣により担当診療科が異なる患者さんに、最適な抗がん剤治療を提案、診療していきます。また、臓器別担当科の術後化学療法(術後補助化学療法・術前化学療法)も実施しています。

2. 他診療科の外来・入院化学療法選択の決定支援(ex希少がんに対する対応)

どのような臓器にも、稀な腫瘍の発生があり治療法決定に難渋します。腫瘍内科医は、このような患者さんに、原発巣によらずがんの特徴に応じた抗がん剤治療を行う事により、診療に当たっています。

3. 免疫チェックポイント阻害剤の副作用発現時の対応

免疫チェックポイント阻害剤は、様々ながん患者さんにおいて、標準治療の一部になりつつあり



腫瘍内科部長
奥野 達哉

ます。しかし、約10パーセント程度の割合で、深刻な副作用を伴うため、腫瘍内科は、臓器の専門診療科と連携し、副作用発症時の対応を行います。

4. 「がん遺伝子パネル診断」提出・患者結果説明支援など

当院は、2019年夏以降、通常の抗がん剤治療を使い尽くしたり、稀な腫瘍に罹ってしまった患者さんに、「がん遺伝子パネル診断」を行う事が出来るようになります。腫瘍内科は、大阪大学附属病院と提携して、「がん遺伝子パネル診断」の結果のご説明を行い、条件の合う患者さんには新薬開発の治験情報を提供していきます。

がん薬物療法は年々複雑化し、高度な内科的知識が求められるようになっていきます。私達は、抗がん剤治療のみならず、外科、内科、放射線科、緩和ケアチームとともに、放射線治療、緩和ケアも行い、当院内で検査・診断から治療・緩和医療まで遂行できるような体制を目指しています。今後、南大阪の地域医療に貢献できるように努力していきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します

職場紹介 過去から学び、未来のリハビリテーションを創造する

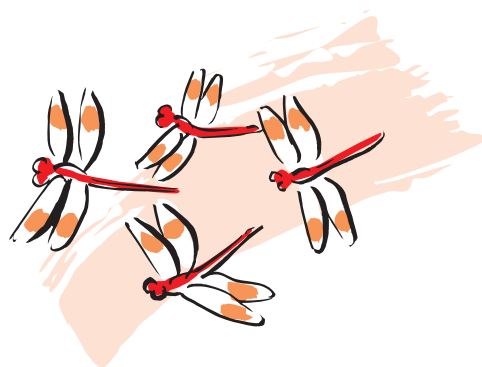
近年のリハビリテーションは、予防から就労、QOL向上など幅広く、対象疾患也多岐に渡っています。医療や介護、また病期別に区分され、それぞれの施設での役割が明確になり、一般の方々にもかなり浸透してきました。当院の中央リハビリテーション部では、急性期リハビリテーションを中心に、全診療科を対象として早期からの介入に努めています。理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3部門を有しており、それぞれの専門に合わせて実施しています。理学療法士18名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、助手1名、受付1名の総勢31名で、向上心の高い若手から経験豊富なスタッフまで幅広くいます。チーム医療に関しては、カンファレンスや回診、各種ラウンドなど、積極的に参加して、医師や看護師、その他医療職と常に情報を共有するように努めています。元の暮らしに戻れるような援助、復職の支援、スポーツ復帰、またその人らしく生きるためにオーダーメイドのプログラムを計画して、患者さんやその家族と喜びを分かち合えることが大きな目標です。過去を振り返ると、整形外科疾患を中心として脊髄損傷患者や脳卒中、切断などを主に診てきました。今では呼吸器、心臓、消化器、誤嚥、がん、認知症を含む廃用症候群など、対象が拡大しています。現代の急性期医療ではリハビリテーション



中央リハビリテーション部
部長
谷本 武晴

による早期の介入が予後に左右すると言われてしますので、ICUやCCUなどの全身管理が必要な方でもリスクに配慮しながら全スタッフが活動的に取り組んでいます。高齢者が多くなっている昨今では、特に意識して行うことが大切と考えています。

これまでのリハビリテーションの効果を検証して(過去から学び)、新しい可能性にもチャレンジして(未来を想像して)、高度なリハビリテーション医療を提供できるようにスタッフ一同、精一杯尽くしていきます。



皆様の提案を取り入れるための「提案箱」を設置しています。

積極的・建設的なご提案をお願い申し上げます。

ご提案先：総務課

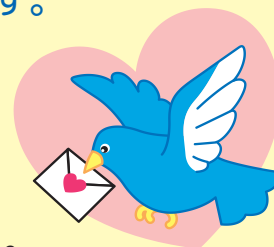
提出方法：①投書の場合

総務課入口に設置してある「こうしたらどうや提案箱」まで

②郵送の場合 住所：〒591-8025 堺市北区長曽根町1179番地の3

大阪労災病院 総務課 あて

③メールの場合 E-mail:soumukatyou@orh.go.jpまで



トピックス 直腸がんへのダヴィンチ手術の導入

万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチ。その名を冠した医療ロボットが今、手術の現場に大きな変革をもたらしています。2018年4月の診療報酬改定で、ロボット支援下内視鏡手術への保険適用が、多くの手術で拡大適応されました。これにより新たに12の術式でロボット支援下内視鏡手術への金銭負担が減少し、患者さんはこの新しい治療を受けやすくなりました。当科ではこの診療報酬改定をうけ、直腸がんの治療にこのロボット支援手術(ダヴィンチ手術)を導入しました。

ダヴィンチ手術は、これまでの鏡視下手術にロボットの機能を組み合わせて発展させた傷口が小さい低侵襲の手術です。術野に内視鏡カメラとアームを挿入し、術者が3Dモニターを見ながら装置を動かすと、その「手」の動きがコンピュータを通してロボットに忠実に伝わり、手術器具が連動し手術を行います。

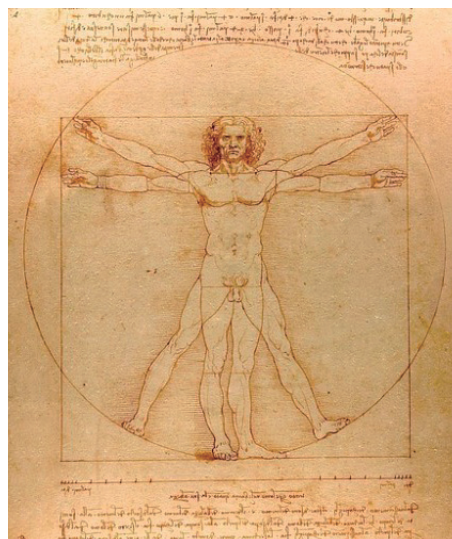
直腸がんの手術は骨盤内深部へのアプローチが必要になります。骨盤内深部は、泌尿生殖器や自律神経に囲まれた狭い空間のため、さまざまな機能を温存しつつ直腸がんを完全切除するのは容易ではありません。術後は排尿障害や性機能障害が60～70%の頻度で起こり、がんの取り残しなどによる局所再発も約10%の頻度で発症します。このような背景から狭い空間においても、拡大視効果から精度の高い手術ができるアプローチ法としてそのニーズが高まったのが腹腔鏡手術です。ただ、腹腔鏡手術は体内の深い場所で手術器具を精緻に操作することが難しく、術者による技量の差が現れやすい欠点があり、直腸がん手術の標準術式となるには至っていません。こうした腹腔鏡手術の課題を克服できると期待されているのが、ダヴィンチ手術といわれています。腹腔鏡手術では深い場所ほど器具操作が難しくなりますが、ダヴィン



外科
長谷川 順一

チ手術は最大約15倍の拡大視効果と自由度の高い多関節機能により、従来不可能とされていた角度からの自在で細密な鉗子操作を可能とし、深く狭い空間においても精緻な操作ができるようになりました。こうしたメリットから、ダヴィンチ手術では直腸がん手術特有の肛門近傍や前立腺の裏側など従来は非常にアプローチが難しかった部位の操作が克服されることになりました。今後は、ダヴィンチ手術、腹腔鏡手術、開腹手術を患者さんの状態により使い分け、常に最善の治療を提供できる体制を整えてまいります。

当院の基本理念「誠実で質の高い医療を行いつべての方々から選ばれる病院に」を実践していくために、全力をあげて取り組んでまいります。今後ともご支援宜しくお願い申し上げます。



ろうさい市民がんフォーラムについて

去る、平成30年11月17日(土)、18日(日)に大阪労災看護専門学校アイリスホールにおいて「ろうさい市民がんフォーラム2018～がんと生きる、みんなで支える～」を堺市・堺市医師会・堺市歯科医師会・堺市薬剤師会と共催で開催しました。2日間を通して多くの方々にお越しいただき会場は大盛況でした。

講演は1日目「肝がん、膵がん・メタボ関係、胃がん・大腸がん、がんのケア」、2日目「たばこが影響するがん、がんと仕事の両立支援、皮膚がん、乳がん」と同日とも4つのセッションに分けて行われ、参加者にとってはどのセッションも身近な話題のため興味深く聞いていらっしやいました。

また、サテライト会場では、「口腔ケアを知ろう」「ウィッグや人工乳房を体験しよう」「胃カメラや腹腔鏡を触ってみよう」などの体験コーナーや「アロマde笑顔バスボム作り」「椅子に座ってdeヨガ」「ろうさいがん患者会いたわりおしゃべり会」も開催され、参加者が実際に触れ、作り、話し合うことでより身近に感じていただいたようです。

元号が変わって、令和元年5月30日(木)には堺市東区役所において「ろうさい市民がんセミナー～知っておきたい 前立腺がん・膀胱がんのこと～」と題し、当院登録医 にしじまクリニック院長と当院泌尿器科医師による講演会を開催しました。

また、令和元年7月11日(木)にも堺市東区役所において「ろうさい市民がんセミナー～肝がんは予防できる！肝がんは治せる！～」と題し、当院消化器内科医師と外科医師による講演会を開催し



ろうさい市民がんフォーラム2018 院長開会挨拶しました。

何れも定員100人と比較的小さな会場でしたが、講演に加えて質疑応答の時間を多く設け、参加者とのコミュニケーションを重視した内容としました。

令和元年の「ろうさい市民がんフォーラム2019」は「進化するがん医療！～最新治療から緩和まで～」と題し11月16日(土)、17日(日)10:00～16:10までの開催を予定しております。「臓器別のがん、仕事との両立支援、緩和ケア」におけるセッションのほか、「がんゲノム医療」についての講演を予定しており、がん治療の進化を参加者に分かりやすく理解していただくことを目標に開催いたします。

また、「ろうさいがん患者会いたわりのおしゃべり会」や「コーラス」、「落語(千里亭だし吉)」などの企画もしておりますので乞うご期待ください。

11月16日(土)、17日(日)の週末は是非、「ろうさい市民がんフォーラム2019」へ足をお運びください。



ろうさい市民がんセミナー(5月30日)講演の模様



ろうさい市民がんセミナー(7月11日)講演の模様

ナイチンゲール生誕を記念し「看護週間行事」を5月15日～5月17日の日程で開催しました。

今年のテーマは「**看護でつながるみんなの心**」

期間中、市民講座をはじめ、看護と介護の連携をテーマにした食事支援品の紹介や試食、感染対策として普段の手洗いをチェッカーで確認、高齢者の健康維持を目的とした健康体操の実演、緊急時の初期対応として人形を使用した心臓マッサージとAEDの体験コーナーを設けました。心臓疾患のため通院しているという患者さんのご家族が、心臓マッサージの体験をされ「テレビではよく見ていたけど、実際に心臓マッサージの体験ができてよかった。救急車が来るまで家族にもできることがある。」というお言葉を頂くことができました。

「元気に過ごすためのヒント」を様々な体験コーナーでお伝え出来たことは、私達にとっても充実した時間となりました。



心臓マッサージの体験
コーナー
赤ちゃんの人形も用意
しました。

5月15日の「1日看護師体験」には、10名の参加がありました。白衣を着て患者さんの話を伺い看護援助を体験したことで、看護の道へ進みたいという気持ちになったという方もいらっしゃいました。担当者として身の引き締まる思いと共に、看護の仕事につけた喜びを実感する1日となりました。ご協力いただいた患者さんありがとうございました。

病棟での清潔援助の様子
「はじめは緊張していた
けど、上手に
洗髪できました！」



皆さんが住み慣れた地域で健やかに過ごせることを願い、これからも患者さんに寄り沿った看護が提供できるよう日々努めてまいります。

編集後記

私のお気に入りのお散歩コースの仁徳天皇陵古墳(一周2.85km)が世界文化遺産に登録されました。日本最大の前方後円墳で、世界3大墳墓の一つといわれているそうです。最近、散歩の度に観光客が増えているのを実感していますが、先般、鳥居付近で、仁徳天皇陵古墳はどこですか?、と尋ねている人がいました。やっぱそう思うよなあ～。大きいがゆえに全貌が分からない。森にしか見えない。気球を上げる等etc.の案があるようだが、さあ～どうする。「がっかり」の観光名所とならないよう早く策を講じないと。てくてく、てくてく、週末のお決まりのお散歩です。

(T.K)